

貸 借 対 照 表

(2026年3月31日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部  |        | 負 債 の 部         |        |
|----------|--------|-----------------|--------|
| 科 目      | 金 額    | 科 目             | 金 額    |
| 流 動 資 産  | 40,346 | 流 動 負 債         | 7,125  |
| 現金及び預金   | 17,831 | 買 掛 金           | 2,197  |
| 売 掛 金    | 21,862 | 未 払 費 用         | 631    |
| 原材料及び貯蔵品 | 652    | 未 払 法 人 税 等     | 1,629  |
|          |        | 未 払 消 費 税       | 2,233  |
|          |        | 賞 与 引 当 金       | 400    |
|          |        | そ の 他           | 32     |
| 固 定 資 産  | 2,437  | 固 定 負 債         | 545    |
| 投資その他の資産 | 2,437  | 繰 延 税 金 負 債     | 545    |
| そ の 他    | 2,437  |                 |        |
|          |        | 負 債 合 計         | 7,671  |
|          |        | 株 主 資 本         | 35,112 |
|          |        | 資 本 金           | 25,000 |
|          |        | 利 益 剰 余 金       | 10,112 |
|          |        | そ の 他 利 益 剰 余 金 | 10,112 |
|          |        | 純 資 産 合 計       | 35,112 |
| 資 産 合 計  | 42,783 | 負 債 ・ 純 資 産 合 計 | 42,783 |

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

  その他有価証券・・・時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算（時価のあるもの）定）によっております。

② 棚卸資産の評価基準及び評価方法

  商品、原材料・・・主として総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）によっております。

  貯蔵品・・・・・・最終仕入原価法によっております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産・・・定率法によっております。ただし、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

② リース資産・・・リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金・・・・・・債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については法定繰入率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金・・・・・・従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上しております。

③ 退職給付引当金・・・・従業員への退職給付に備えるため、当事業年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。  
過去勤務費用は、主としてその発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。数理計算上の差異は、主として各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日から費用処理しております。  
なお、年金資産見込額が退職給付債務見込額に未認識数理計算上の差異を加減した額を超過しているため、超過額を前払年金費用として長期前払費用に計上しております。

2. 当期純利益の額

  当期純利益                   5,934千円